

# 平成 30 年度 竹田城跡遺構現状確認調査

平成 31 年 2 月 10 日  
朝来市教育委員会事務局文化財課

## 1. はじめに

朝来市では、平成 30 年 3 月に策定した『史跡竹田城跡整備基本計画』に基づき、今年度から本格的な竹田城跡の整備事業に取り組んでいます。

計画 1 年目の今年は、平殿と三の丸の犬走り保護と三の丸虎口の階段整備を予定しており、2 年目の平成 31 年度は通路部分の整備にも取り掛かる予定となっています。

しかし、遺構の実態に関しては不明な点が多く、朝来市では史跡の適切な保存と活用を図るために遺構の状況を把握することが必要であると考え、今回の調査を実施しました。

## 2. 竹田城跡の概要

竹田城跡は、兵庫県のほぼ中央部の但馬地域南端に位置する朝来市に所在しており、円山川左岸の古城山山頂一帯に築かれています。但馬・丹波・播磨の国境から程近く、城跡からは山陰道等の主要街道を見下ろすことができることに加え、山麓の城下町が街道を取り込む形で形成されているなど、交通の要衝を抑えることを意図した立地となっています。

竹田城の築城は、鎌倉時代から江戸時代に書かれた『和田上道氏日記』によると、山名持豊（宗全）の配下であった太田垣土佐守の城として築かれ、太田垣氏が 7 代にわたって城主を務めたとされていますが、永禄 12 年（1569）以降、織田信長の配下であった木下藤吉郎（後の豊臣秀吉）の攻勢を受け、天正 8 年（1580）には太田垣氏の支配は終焉を迎えました。

その後、天正 10 年（1582）に桑山重晴、天正 13 年（1585）に赤松広秀が竹田城の城主として入城し、石垣の城郭を築造しました。最後の城主となった赤松広秀は天正 13 年（1585）から慶長 5 年（1600）までの 15 年間にわたり城主を務めましたが、慶長 5 年（1600）の関ヶ原の戦いでは西軍に属したため、鳥取の真教寺で自刃することとなり、竹田城は廃城となりました。

竹田城については元和元年（1615）より生野奉行（享保元（1716）年以降は生野代官）の管理下に置かれていましたが、江戸時代以降の詳細は不明です。しかし、大規模な破却は免れたようで、城跡の一部石垣は現在まで残されています。昭和 18 年（1943）に国史跡に指定され、平成 21 年（2009）の追加指定を経て、現在に至っています。



### 3 . 調査の概要

#### (1) 今年度の調査区



#### (2) 調査結果

##### ① 平殿石垣犬走り【調査区1】

表層に堆積している腐葉土と瓦などが混じった流入土を取り除いた結果、調査区の一部で幅約1m程度に整地した犬走りが残っていることが判明しました。しかし、堀切に該当する部分の犬走りと堀切の埋め土が流出しており、石垣の基礎地盤が劣化している様子も確認しました。



堀切肩の状況



堀切上に築かれた石垣の基礎部分

## ② 平殿石垣犬走り【調査区2】

表層に堆積している腐葉土と瓦などが混じった流入土を取り除いて遺構の現状を確認した結果、幅約1m程度に整地した犬走りが良好な状態で残っていることが判明しました。

この調査区では、調査区1とは異なり、石垣基礎が劣化している様子は確認されませんでした。しかし、犬走りの幅が狭く、前面の斜面の土が流出しつつある状況を確認しました。



残存する犬走りの状況①



残存する犬走りの状況②

## ③ 三の丸石垣犬走り【調査区3】

表層に堆積している腐葉土と瓦などが混じった流入土を取り除いた結果、幅約1m程度に整地した犬走りを確認しました。

大部分の犬走りは良好な状態で残っていることが確認されましたが、隅角部の石材が破損している檜台の基礎部分では、土砂の流出によって犬走りの幅が極端に狭くなっており、石垣の基礎地盤の劣化が進行している状況を確認しました。

また、今回の調査では犬走り下で新たに石垣が見つかりました。この石垣は、堀切を埋めて築いたと見られ、太田垣氏の「土の城」の上に現在の「石の城」が築造されている状況を確認することができました。



犬走りの残存状況



新たに見つかった石垣

#### ④ 二の丸虎口階段【調査区 4】

遺構保護のために敷設してある不織布と保護盛土を一時的に撤去し、遺構上面の流入土を除去した結果、虎口の階段遺構と石敷遺構が確認できました。

この虎口の階段には、大きいものでは幅 2 m を超えるような石材が使用されてることに加え、階段の上下に踊り場のような石敷が設けられていたことが判明しました。



階段遺構の状況



階段下の石敷き遺構

#### ⑤ 三の丸通路・虎口階段【調査区 5・6】

遺構保護のために敷設してある不織布と保護盛土を一時的に撤去し、遺構上面の流入土を除去した結果、三の丸虎口から二の丸虎口にかけて石敷遺構が存在することが判明しました。今回の調査では、石敷が築城当時のものである可能性が考えられますが、その方向が虎口や櫓台などの遺構と合致しない点もあり、今後さらに調査研究を進める必要があります。



三の丸石敷き遺構①



三の丸石敷き遺構②

## 4. まとめ

今年度の遺構現状確認調査では、石垣の基礎構造や築城当時の通路に関する多くの重要な情報を得ることができました。この成果は、遺構の保護や見学通路の整備を行うための重要な基礎情報として、来年度以降の整備に反映していく予定です。